

令和3年度 学校評価計画表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

令和3年度 学校評価計画表

奈良県立西和清陵高等学校

校 訓	清新 敬愛 力行		
教 育 目 標	校訓「清新 敬愛 力行」の精神を基調として、社会人としての「生きる力」を育成する。		
学校経営方針	<p>(1) 日々の学習を通して確かな学力を身に付けさせると共に、一人一人の*キャリア発達を促す。</p> <p>(2) 人権を尊重する態度やコミュニケーション力を培い、自他を敬愛する心と社会規範意識を高める。</p> <p>(3) 心と体のバランスを整える力を養い、充実した生き生きとした学校生活を送らせる。</p> <p>(4) 生徒の10年後に必要な力の基礎を身に付けさせたり、学校の10年後のあるべき姿を意識して校務の工夫・充実を図ったりする。</p> <p style="text-align: center;">*キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。</p>		
目指す学校像	○ 生徒が自己実現のために生き生きと学習する学校		
目指す生徒像	<p>○ 自己実現に向けて、主体的に学習に取り組む生徒</p> <p>○ 自己の考えをもち、周りの人々と適切なコミュニケーションが図れる生徒</p>		
目指す教員像	<p>○ 一人一人の生徒を深く理解し、心に寄り添い、生徒の自己実現に必要な力を育てる教員</p> <p>○ 校務を見直すと共に自己のスキルを高められ、ワーク・ライフ・バランスが図れる教員</p>		
昨年度の成果と課題	本 年 度 の 重 点 目 標	具 体 的 目 標	総 合 評 価
<p>授業展開の工夫も功を奏し、生徒の78.2%が「授業は分かりやすい」と回答している。今後、不十分な家庭学習の充実を目指す。継続した指導で、挨拶は確立されてきたが制服の着こなし、頭髪指導は更に教員間が連携して対応していく必要がある。コロナ禍における安全対策を徹底したうえで、創意工夫した教育活動に取り組んでいく。GIGAスクール構想の円滑な展開を目指す。</p>	(1) 確かな学力の育成	<p>ア 基礎的・基本的な学習内容を定着させるための工夫・充実</p> <p>イ 思考力・判断力・表現力を高める「主体的・対話的で深い学び」の実現</p> <p>ウ 家庭学習時間の確保</p>	B
	(2) 生徒の自己実現	<p>ア 一人一人の生徒の能力や適性に応じた進路指導の工夫・充実</p> <p>イ 部活動やボランティア活動等を通じた、達成感、成就感、自己肯定感等の向上</p> <p>ウ 実用英語技能検定、漢字検定及びパソコン検定等の資格の取得</p>	
	(3) 社会規範意識の向上	<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 様々な場面でのコミュニケーションを通じた、ものの見方や考え方の育成</p> <p>ウ 地域協働「地域と共にある学校づくり」の工夫・充実</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習指導	基礎・基本の学力の定着	・目的意識を高め、学習意欲の向上を目指す。1日1時間以上、自主学習をする生徒が、50%になることを目標とする。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果(%) ()は昨年度 1年 33.9 (21.5) 2年 19.4 (16.6) 3年 19.3 (データなし) 学校評価アンケート(生徒)によると、86.4%が本校の授業は分かりやすいと評価している。(78.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も更に授業展開方法の工夫や教材研究を行う。 予習・復習や課題の提出等の指導だけではなく、進路実現に向けて、家庭での学習の重要性を認識させていく必要がある。 	
		・生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。アンケートで「授業がよくわかる」と答える生徒が75%以上になることを目標とする。	A				
特別活動	ボランティア活動への参加・啓発	・募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会は必要に応じて実施することができた。 オープンスクールにおいて部活動体験を実施することができた。加入率は48%。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも実施できる活動に取り組んでいく。 各活動において感染防止対策を徹底する。 	
	生徒会活動の活性化	・各委員会でを行う内容を見直し、委員会活動を起点として学校活性化を促す。	B				
	部活動の活性化	・部活動紹介・体験を充実させ、加入率60%を目指す。	B				
生徒指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導対象者への指導を強化し、指導参加率90%を目指す。遅刻は昨年度比20%減を目指す。これを通して生活習慣と健康への意識高揚を図る。 一斉頭髪、服装点検を定期的実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で全校集会は実施できなかった。各行事での集団意識の向上を図った。生活アンケート、各セミナー実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携を強化し生徒の生活習慣の構築を図る。 学期毎の一斉頭髪・服装指導は今後も継続。 コロナ禍でも実施できるセミナーや講演会を実施し、生徒の規範意識の向上に努める必要がある。 挨拶運動は教員のみで実施しているが、ここに生徒会や各部活動に参加を促し、「あいさつ週間」を実施する予定。 	
	規範意識の向上	・生活アンケートを実施し自己認識を高める。また、全校集会や学年集会を通して集団意識の向上を図る。	B				
	あいさつの励行	・毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRでの挨拶指導を通してコミュニケーションの大切さを理解させ、その実践力の向上を図る。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
進路指導・キャリア教育	進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り大学・短大・専門学校の資料やDVD等のデータを集める。 就職について「就職の手引き」を作成し少しでも意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 最近では学校紹介等のDVDが出ていない状況であるが、可能な限りのDVD等は準備出来た。資料についても最新年度の物を用意した。 「手引き」も準備し、生徒は高い意識を持って取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、コロナの状況を見ながら、出来るだけ生徒が様々な情報を知る事が出来るように、情報の発信が出来ればと思う。（ガイダンスの出来るだけの実施やDVDの閲覧などの機会を設ける。） 今年度を実施した「自己PR」の添削については、生徒が書く機会を持てたと思うので来年度以降についても、「自己PR」だけではなく、志望動機など学年で工夫をして行えばと思う。 進学説明会やオープンスクールについても、状況によるが出来るだけ参加できるようにしたい。 就職については、企業もコロナに対応してきたこともあるが、本年はほぼ順調である。また、来年に関しては一次から複数応募可能になる可能性があり、その場合には事前見学が必ず増加するので、ご協力をお願いしたい。 	
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で出来るだけ実施する。 インターンシップの案内をすることにより将来について考えさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 三学期にコロナの影響で1年のガイダンスが出来なかった。 今年はコロナ等もあり、全ての案内はしなかった。 		
	進路情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 「進路ニュース」を年6回発行する。 進路説明会やオープンキャンパスの案内、進路情報誌の適切な提供を行う。 進路資料室の利用を高める。 多目的ルームの活用を考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年は6回の発行が出来なかった。 情報誌の提供は出来たが、オープンキャンパスの案内については、コロナ感染予防のため、掲示しなかった。 例年同様就職時期や推薦入試時期に利用はあったが、人数が多くなるときの密対策が大変であった。 授業等での活用は取れていたが、進路としての活用は出来なかった。 		
人権教育	人権意識の確立と仲間作り	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権を尊重したクラス、学年作り。 人とのつながりを大切にする生徒の育成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年において、お互いの人権を認め合う雰囲気作りができていた中、SNS等における配慮に欠けた言動なども観られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に朝のSHRにて、SNS等でのマナーを含め、人権意識を高めることを伝える。 来年度の人権講演会もコロナ対策として2つのグループに分けて行う。当日の欠席者には、講演のビデオを観せる。 新3年生には、2年の修了式にて奨学金のリーフレットを配布し、案内を徹底した。 	
	生徒・教職員・保護者の人権意識の高揚と連携	<ul style="list-style-type: none"> 人権HRによる人権意識の深化。 人権講演会などの立案と計画。 研修会などによる人権学習の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権HR年間計画表に沿って、HRを展開できた。 コロナ対策として、全校生徒を2つのグループに分けて講演会を行った。アンケート結果においても講演会は高評価であった。 奨学金に関する研修会を行い、奨学金の受給や貸与に関する条件や授業料や入学金の減免などについての研修を行った。 		
教育相談 特別支援教育	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー配置事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。 校内教育相談体制の構築に努める。 教育相談充実のために年1回の研修を企画する。 外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等）との連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度からSCが変わったが、生徒たちはスムーズに受け入れることができ、相談者も増加している。 「子どものSOSを受け止めるために」冊子を元にSCによる職員研修を実施した。 生徒の状況に応じ、適切に外部機関と連携を取りながら対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> SCについては、放課後の申し送りも時間を区切って行うようにしたが、配当されている時間では、希望する生徒に満足に案内できていない。県から割り振られている勤務時間の増加を要請する。 特別支援が必要な生徒については、保護者及び本人が特別な支援を希望してい 	

特別支援教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいや持病等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。 ・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実を図る。 ・特別支援教育の推進、発達障がいの理解のために年1回の研修を企画する。 ・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに生徒の健康状況を含む配慮事項一覧を先生方ヘデータで確認してもらった。 ・支援区分の認定は、特別支援委員会を実施し、速やかに随時行った。 ・担任による個人面談で配慮を必要とする生徒の確認、把握をしてもらった。 ・今年度学習支援員が変わり、当日に休まれることが多く、生徒支援は十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことが前提であり、その場合は個別の支援計画を作成し、計画的に支援員を配置していく必要がある。 ・特別支援の対象となっていない生徒も様々な問題を抱えており、職員間で共通理解して対応していくことが必要である。 	
-----------	--	---	---	---	--	--

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
保健・安全管理	生徒の心身の健康状態把握と対処	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前・事後指導の徹底を行う。 ・各種面談、健康調査票、定期検診、学校保健委員会を通じた生徒の身体状況、健康状態の共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前、事後指導を個別に行った。 ・各研修等を開催し、教職員・生徒の共通理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校医や他機関と連携し、教職員の意識の向上と知識の深化を図る。 ・生徒自らが健康問題に興味・関心をもって、改善していく努力をしていくための指導とサポートを行う。 	ネットに関わって、生徒が被害者にも加害者にもなりうることを留意し指導する。
	危機管理体制の整備と安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全マニュアルに基づき、緊急時の適切で迅速な体制の共通理解を図る。 ・生徒指導部と連携した生徒対象の安全教育を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全マニュアルに基づき、適切で迅速な体制の周知徹底ができた。 ・第一学年では、「眼のセミナー」第二学年では「性のセミナー」を行い、学年に応じた健康課題について講習を行った。 		
	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活実態に基づいた、食育推進体制の強化と指導全体教育の推進を行う。 ・生徒、保護者への啓発活動を行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・保健や家庭科授業と連携し、栄養の摂り方や、楽しく食事することの重要性を学習した。また、体育授業では朝食をしっかり摂って体を動かすことを強調した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、食育の重要性を啓発していく場を設けることが課題である。 	
教職員の研究・研修	生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の研修講座、教育課程研究集会、教科等研究会の研修会に積極的に（オンライン研修）参加し、お互い情報交換をしながら研修を深め、その成果を活用する。 ・校内において学習・生徒指導・進路指導・人権教育・教育相談等に関する研修を各学期に1回以上実施する。 ・授業公開・授業研究を実施し、意見を交換しながら、絶えず自己啓発に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の各研修講座がコロナ禍の影響によるオンラインでの受講に参加した。 ・教育課程研究集会、教科等研究会のオンライン研修会に積極的に参加できた。 ・生徒指導、人権教育、情報教育などの研修を実施した。 ・11月から相互授業参観を実施し、指導力の研鑽に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、増加が予想されるオンライン授業に向けて、ハード面での構築を図る。 ・本校での防災教育展開に鑑みて、更に研修を強化する。 ・BYODに関する研修・観点別教科などの新しい教務内規に関する研修がさらに必要である。 	
学校事務	経営方針に基づく教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安全にかつ安心して学習に取り組む、充実した学校生活が送れるように定期的に校内を巡回し、環境整備に努める。 ・放置できない危険箇所等については、整備計画を提出し、早期に復旧できるよう関係課と連携し、働きかけをすすめる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・十分とは言えないが、予算の範囲内で学校設備等の整備に努めた。今後も安全点検により整備が必要と判断した箇所については、優先順位を考えて対応していく。 ・懸案であるグラウンド法面やフェンスの整備について、県教委の現地確認があり、即時に整備が必要な状態ではないと判断されたが、引き続き定期的に巡視を行う等、状況把握に努め、整備に向け働きかけを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策等を常に意識しながら学校の環境整備を進めつつ、光熱水費の削減取り組む等、効率的な予算執行を行う。 	

	学校運営経費等の適切な執行管理	<ul style="list-style-type: none"> 法令を遵守し、適正な事務処理・予算執行に努める。 光熱水費を少しでも削減できるよう管理し、省エネ等について職員への啓発に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 会計局が実施する実地検査を受検し、適正な事務、予算執行について再確認ができた。 職員の省エネ意識は向上しているが、新型コロナウイルス感染症対策による教室の換気のため、光熱水費は引続き上昇傾向にある。適切な使用を行いつつ、削減方法を検討することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な事務執行のため、各担当が、法令を遵守し、県が実施する研修を積極的に受講する等、自己研鑽に努める。 	
--	-----------------	---	---	---	---	--

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
広報・渉外	学校教育活動の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌「紅葉」の発行及びWebページ等による広報活動の推進。 中学生の体験入学（オープンスクール）において、在校生が自身の感じている本校の良さを自分たちの言葉で伝えることができるシステムを推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの学校行事が中止や規模の縮小をせざるを得なかった。そのような状況下でもできる限りの広報活動を行った。オープンスクールは、今年度から模擬授業参加も実施し好評を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> とにかく新型コロナウイルス感染症が落ち着かない事には如何ともしがたいが、その中でできる限りの広報活動をはかって行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大の防止と言う制約の中でも、前向きで積極的な情報発信を実施していく。
保護者・地域・関係諸機関の連携強化		<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの内容を充実させ、新聞などの外部広報機関との連携をはかる。 地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加・貢献して地域の理解を促進し、親睦を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの発行や外部広報機関との連携は例年通り上手く行えた。 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、地域のイベントやボランティア活動の中止が相次いだため、十分な成果は得られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> やはり新型コロナウイルス感染症が落ち着かないと普通の日常生活は戻って来ない。身を正し、感染拡大防止に協力するしかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 非接触手段による広報の充実を来年度は更に推進する。地域への貢献や連携も、従来とは異なるアプローチを考える。
同窓会の組織		<ul style="list-style-type: none"> 同窓会組織を整備し、活性化を図る。 名簿管理の業者委託を行い、業務の効率化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度も同窓会総会は中止せざるを得ず、同窓生間の交流を図ることはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ウイルスの感染拡大が続くのであれば、総会に代わる書面審議等を導入し、活動の維持管理を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去的手段に拘らず、実現可能な方策を考え、実施していく。
文化図書	図書情報を活用した学校生活の展開	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、教員からの推薦図書を充実させる。 授業をサポートし、授業・総合学習などで利用できる図書館作りを進める。 生徒自身が必要な情報を自ら得られる場としての環境整備を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員推薦図書はおおむね購入することができた。 授業、進路指導などで10数時間の図書館利用があった。今後さらに利用しやすい図書館を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 推薦、リクエストに基づく幅広い図書の選定を心がける。 図書館でできる授業プランを提案する。 	
	図書室利用の促進と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だより、新着図書の紹介などの内容をより充実させる。 生徒昇降口横の掲示板に新着図書案内や、時流に即した図書、新聞情報を随時掲示し生徒の興味・関心の喚起に努める。 朝の読書、図書館ライブ、百人一首かるた大会などの内容を本校の実態に適合したものとし、活性化を図る。 寛ぎの場としても図書館を利用できるように、飲食可能なスペースを設置する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりを年間8回発行した。 生徒昇降口横の掲示板には随時新しい書籍情報、新聞、雑誌記事などを掲示し、生徒の興味を引く工夫を重ねた。 朝の読書、図書館ライブはどちらも年間行事計画のとおり実施できた。 コロナ感染状況の拡大により、1月のかつた大会は実施できなかった。 飲食可としたところ、昼食時に利用した折に図書を閲覧する生徒もいたが、昼食場所としてのみ利用する生徒の中には使用マナーを守れない者もあり、対策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 従来そのまま継続すべき取り組みと、新しく試みていくことの両方を取り混ぜていくことで、魅力ある図書館づくりを進めていく。 読書習慣・学習習慣の定着の支援となるような行事、ホームルーム活動、総合学習の内容を発信・提案していく。 	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
環境・美化	校内施設の保全、安全・防災環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 美化関連用具、及び清掃用具の点検保全を学期毎に1回行う。 四季折々の花を絶やさない美化活動を行う。(新型コロナウイルス感染拡大なら延期か中止) 救助袋を使用した防災学習・訓練の実施する。(新型コロナウイルス感染拡大なら中止) 「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める。 安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室清掃用ほうきは全クラス交換。 危険な生徒用机の修復と椅子の交換。 チューリップの植栽は新型コロナウイルス感染拡大防止のため職員で植栽。 避難訓練は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。(避難経路は各HRで確認) 「きれいな学校」への意識が高まったのか、目立つゴミが少なくなった。 安全点検を引き続き行ったが、対処に緊急を要する危険箇所は発見されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室清掃用ほうき等の新規購入など清掃用具の整備が必要。 「きれいな学校」にすのため、拭き掃除の頻度を高める。 安全点検の定着化 地域により貢献できるような通学路清掃の機会を増やす。 ゴミの分別回収の意識の涵養を普段から行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 三郷町で取り組むSDGsに関する運動を、生徒たちにも紹介し、共に地域連携を図る中で、生徒のグローバルな視点を養うことができるように工夫する。 コロナ禍においての、防災教育を考え、避難訓練の内容や実施方法を考察する必要がある。 地域の三郷町のクリーン運動や通学路清掃など、地域の人々との触れ合いに重点を置き、様々な年齢の人から学ぶ姿勢を養い、自分の将来につなげる指導をする。
	地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティーにおける役割を担う	<ul style="list-style-type: none"> 通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする。(年3回) ゴミの分別回収の啓発を行うとともに、分別回収の徹底を図る。 	B			
第1学年	基本的生活習慣の見直しから確立へ	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶を励行させる。 時間厳守を徹底させる。 身だしなみの指導を徹底する。 礼儀や正しい言葉遣いを定着させる。 規範意識の定着させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で元気よく声を出す挨拶はできにくいのが、礼をする動作は少し物足りない印象を受ける。 時間厳守について、5分行動はよくできていると思われる。遅刻は年間を通じて後半に特定の生徒が多くなった。 学習面では、提出物については、ほとんどの生徒が問題なしである。 家庭学習については、定着しているのよいと思われる。 ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送り、仲間意識が芽生え始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣を確立させるために、各自の生活習慣を見直しさせる必要がある。 できる科目のスキルアップと苦手科目の克服のため、家庭学習の時間を増やす工夫が必要である。 将来を見据えた学校生活を充実させたい。そのために、具体的な進路を考えさせる。また、修学旅行という最大の行事を通して集団生活の必要性を考えさせたい。 	
	学び直しから基礎学力の充実へ、	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本的内容の復習をさせる。 家庭学習の定着（予習復習）させる。 授業を大切にしている意識の育成する。 	B			
	帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活の理解となかま意識を育成する。 学校行事や課外活動へ、積極的に参加させる。 思いやりの心を育成する。 将来を見据えた学校生活を充実させる。 	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第2学年	中堅学年としての自覚と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上と規律ある行動を確立させる。 ・挨拶を励行させ、基本的生活習慣を確立させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席をする生徒が固定化してきており、継続して家庭と連携し指導していく必要がある。 ・問題行動（喫煙・飲酒・交通違反）が目立った。また、友人間での感情のもつれ、服装規定違反も多く、規範意識の向上・規律ある行動の確立には至らなかった。 ・修学旅行を実施した。入学時から、実施できるのかどうか、できるとしたら時期や行先は、と、検討を重ね、予測のつけにくい中で大きなプレッシャーを感じながらの実施であった。40名不参加。参加した生徒は、良い経験ができた様子であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR・授業ではもちろん、学年全体で集まる機会も利用して、規範意識を高め、定着させたい。 ・学習、欠席・遅刻、検定受検・身だしなみ・礼儀など、すべてが進路実現にすることを様々なシーンで伝え、理解させることを継続して行う。 ・進路目標を明確に持たせ、進路実現させる。 	
	進路実現のための基礎固め	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にできる態度を育成する。 ・基礎学力を徹底し、家庭学習を充実させる。 ・自己能力の認識と開発をさせる。 ・進路に関わる情報を収集させる。 	B			
第3学年	最高学年としての自覚と社会の一員となるための資質の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を確立させる。 ・学校生活の様々な場面での指導を通して、規範意識を向上させ、問題行動を未然に防ぐ。 ・学校行事等に主体的に参加させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・例年より少ないが、進路決定後から遅刻、欠席数増加が目立つようになった。 ・家庭学習期間における課題提出等、ほとんどの生徒は期限内にしっかりと取り組んでいた。 ・部活動を引退までやりきり、各クラブを盛り立ててくれた。 ・修学旅行を始め、多くの学校行事が中止、延期、規模縮小などの運びとなったが、悲観的にならず今できることを協力的に動き、大変明るく乗り越えてくれたありがたい学年集団であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席の習慣を付けさせないように第1学年から指導を徹底するべき。 ・クラブ参加率をあげることはもちろん、途中退部を少なくする努力の方が必要だと感じた。 ・学校行事等の規模縮小があったとしても、その中でできることを相談、工夫して取り組めたことが良い方向に向かったと感じる。 	
	進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標を早期に設定させる。 ・家庭学習を充実させ、促進講座に積極的参加させる。 ・進路決定後の指導を徹底する。 	B			